

# 地域医療構想の達成に向けた地域での連携状況について

資料1-3

構想区域	島しょ
所在地	
医療機関名	

過去の地域医療構想調整会議（島しょ）や島しょ医療機関向けの調査では、本土の医療機関との情報共有・連携に関して、下記のような課題や改善点が挙げられていました。

当時から改善したことや未だ課題として残っていることを振り返り、本土の医療機関と共有して一層連携を深めるため、調査へのご協力をお願いいたします。

過去に挙げられた本土の医療機関との連携上の課題・改善点（H29・H30）

- ・本土の医療機関と電子カルテをクラウド上で共有できれば、紹介した患者の入院後の経過やフォローがしやすい。受け手側の本土の医療機関も、どのような患者が来るのか事前に情報収集しやすいのではないかと。
- ・診療所を経由せず本土の医療機関にかかった場合、島に戻る際島しょにも情報共有してほしい。
- ・退院の情報が数日前でないと分からないことがあり、島の社会資源でどのような対応ができるか戸惑うことがある。
- ・看護サマリーがなくわかりにくいことがある。
- ・退院時に処方薬が不足しており、帰島まで薬が持たない場合がある。
- ・患者情報の問い合わせの際、担当医師になかなか連絡が取れなかったり、連絡先窓口がわからない場合がある。
- ・広尾病院のような画像伝送システムがないため、CDを郵送する等の手間が生じる。

<参考>本土の圏域で挙げた医療連携上の課題・改善点（R4）

- ・診療科や疾病ごとに、各医療機関の得意・不得意がわかると連携がスムーズにいくのではないかと。
- ・今後多疾患併存の高齢者がますます増えることが想定され、介護も含めた地域での連携が重要。

1. 島しょの患者を本土の医療機関に紹介する際、本土の医療機関に係るどのような情報があればより円滑に医療連携が進むと思いますか。

2. 本土の医療機関から島しょの患者が、島しょの医療機関に返送・逆紹介される際、どのような患者情報の提供があれば、円滑な受入れに役立ちますか。

3. 平成29年に地域医療構想に関する取組を開始して以来、地域連携に関して何か変化はありましたか。